別紙

平成２１年度　森プロ事業実績：円原森プロ

（平成22年3月末現在）

		H20年度	平成21年度				5カ年
		計画	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		―	200	137	69%		400
作業道(m)		―	1,200	885	74%	坂本1:313m、坂本2:160m、万所:412m	12,700
間伐等	面積(ha)	―	26	17	65%	間伐(利用、切捨)	202
	材積(m3)	―	1,400	345	25%	作業道支障木含む	12,500
備考							

平成21年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)　　1,500円／m3(予定)

施業集約化の状況
- 森林組合が地元精通者の協力を得ながら森林所有者へ説明を行い、集約化を進めている。

施業プランの活用状況
- 精算時において施業プラン(書式)を用いて森林所有者へ説明及び精算を行う予定。

施業プランナーの養成状況
- 森林施業プランナー:2名(H19全森連研修:1名、H20県研修:1名)

作業道の状況
- 急傾斜地や崩壊地、谷川沿いなど災害発生の恐れのある危険地帯は避けて、できるだけ等高線に沿った平面線形とする。
- 地形や地質、利用目的等に応じた幅員とする。
  (基本は3．0m、機械の作業ポイントは3．6m)
- 各林分の資源状況を把握し、木材生産に関して費用対効果の高い線形とする。
- 片切片盛を原則とし、掘削した土砂は盛土部に利用し土工量の均衡に努め、残土の発生を抑制。
- 残土は災害の恐れのない場所に土捨場を設け、適切に処理。
- 排水処理を徹底して行い、壊れにくい道を作る。

作業道の開設状況

完成した作業道

作業システムの状況

・基本は車両系システムとし、作業道から遠い林分は架線系システムにより木材生産を行う。

＜車両系システム（メインシステム）＞
チェーンソー（伐倒・造材）→ グラップル（積込）→ 2tトラック（小運搬）→ 8tトラック（外注）
＜架線系システム＞
チェーンソー（伐倒）→ スイングヤーダ（集材）→ チェーンソー（造材）→ グラップル（積込）→ 2tトラック（小運搬）→ 8tトラック（外注）

・事業地までのアクセス道路が狭く、2tトラックで小運搬する手間で素材生産費が嵩む分、県森連等との連絡を密に取り、製材工場等のニーズに応じた造材、選別を行う。

2tトラックによる小運搬

利用間伐を実施した林分

その他

・共同企業体間で協定締結。（平成21年9月11日）
・現場で安全祈願祭を開催。（平成21年9月25日）
・プロジェクトの進捗状況や問題点等を定期的に話し合う「円原森林づくりプロジェクト運営委員会」及び打ち合わせ会議を開催。（21年度は3回開催）
・マスコミ等へ積極的に情報提供し、一般市民へ健全で豊かな森林づくりのPRを行った。（森林組合広報誌、新聞、山県市有線テレビ）

森プロの成果

・降雪と春の長雨で実績は伸びなかったが、ソフト部門は森林組合、ハード部門は㈱遠藤造林と役割分担し、お互いの得意分野を生かしながら事業を進めることができた。
・施業集約化は椿森プロの経験を生かして順調に進めることができた。
・作業道開設により森林所有者の自己山林への意識の高揚を図った。
・㈱遠藤造林は作業道の開設技術の向上、森林組合にあっては作業道の設計監理技術の向上を図った。

今後の課題

・事業計画書に基づき、平成22年度以降は作業道の計画的な開設及び素材生産量の増大に努める。
・森林所有者の林業意欲の向上を図るため、できるだけ早い時期に21年度事業の精算（森林所有者へ利益の還元）を行う。